

二〇二三年度

Sr.マリア・マダレナ江角特待生 入学試験問題

国語（五十分）（全六ページ）

〈注意〉

- 一. 試験開始の指示があるまで、この問題冊子・解答用紙を開けてはいけません。
- 二. 試験開始の指示と同時に、解答用紙に受験番号と氏名を書きなさい。
- 三. 試験開始後、問題冊子がそろっていないか、印刷がはつきりしないところがあったら、手をあげて試験監督に知らせなさい。
- 四. 解答はすべて解答用紙の指定されたところに書きなさい。
- 五. 記述問題で字数制限がある場合は、句読点・記号も一字として数えなさい。
- 六. 問題文は上下二段になっています。



東京純心女子中学校

□ 次のXの文章は「無言館」(戦争で亡くなった画学生の絵や遺品を

展示するための美術館)の館主、窪島誠一郎さんがつづつたものです。

Yの「乾かぬ絵具」という詩は、館主の窪島誠一郎さんが画学生たちに捧げたものです。文章と詩を読んで、後の問いに答えなさい。

X

①人間には二つの命がある、と申しましたが、それは「命」と「生命」の違いともいえます。

人間には「命」と書く一文字の「いのち」とは別に、「生命」と書くもう一つの「いのち」があるのです。

ふつうは「生命」という字は「せいめい」と読みますが、「いのち」とフリガナをふる場合があります。お父さんお母さんからもらった一つの尊い「命」を、何かに打ちこむことによって「生かす」のが「生命」なのです。人間には、この「命」と「生命」という二つの「いのち」があるのです。

□ 画学生たちは戦争で死んでしまいました。もう二どと、失われた画学生たちの「命」は取りもどせません。

□ 画学生たちの絵は今もちゃんと「生きて」います。画学生たちの「命」は、Aリッパな「生命」となって絵の中で生きつづけ、たくさんの人々に感動をあたえているのです。市瀬文夫さんも、山之井龍朗、俊朗兄弟も、太田章さんも、絵の中ではけっして死んではいないのです。

これは何も、画学生たちだけのことではないでしょう。

ある意味では、私たちは自分にあたえられた「命」を「生命」に変えて、初めて「生きている」といえるのかもしれませんが。この世の中に生まれてきた幸せは、「命」を「生命」にすることによってこそ初めて獲得できるのかもしれませんが。

私たちは日常、自分の「命」はとても大切だと思っています。□、「命」があれば美味しいものを食べられて、旅行したいところに行けて、楽しいことをいっぱい経験できるからです。昔から「②命あつての物だね」とかいうように、「命」があるからこそ、私たちは毎日、会社で働いたり、学校で勉強したり、また遊んだりして生きてゆけるのです。私たちがそんな自分の、たった一つの「命」を大切にしようと思うのは当然といえば当然のことでしょう。

しかし、それはあくまでも「自分だけの命」のことです。「生命」の「いのち」とは違うのです。

「生命」は、自分だけが楽しく生きるという「命」ではありません。美味しいものが食べられるだけの「命」でもありません。自分の「命」がだれかを感動させ、幸福にさせ、Bユウキつけたときに初めて「生命」になるのです。「自分の命」が、自分以外の人たちの幸福に役立ったとき、初めて私たちは人間としての二つ目の「命」、すなわち「生命」をもったということになるのです。

覚えておいてください。

お父さんお母さんからもらった「命」は、自分一人だけを幸せにする「命」ではなく、自分以外のたくさんの人々をも幸せにできる「生命」でもあることを。それは自分だけが美味しいものを食べられたり、好きなどころに旅行に行ったり、楽しいことができる「命」ではなく、私たち各自の努力次第によって、多くの友達や家族や見知らぬ人々にも美味しいものを食べてもらい、楽しい経験をさせてあげることができる「生命」でもあることを。私たちの社会は、そんないくつもの見知らぬ「生命」によって、助けたり助けられたりして出来上がっているのだということ。

だから、だからこそ、私たちは命を大切にしなければならぬのです！

こう考えると、③毎日毎日、新聞に出ている「殺人」や「自殺」や「事故死」といった記事ほど悲しいものはありませんね。

私たちはよく、交番の掲示板に出ている交通事故の死者の数や、新聞に載っている自殺者のCトウケイ表の数を眼にしますが、それは単なる「失われた命」の数です。そこには「命」が生み出した「生命」の数が入っていません。その人が大好きだった友達の数や、仕事の数や、やりとげたかった人生のDモクヒョウの数が入っていないのです。一人の人間の死には、その人間が一生のうちに幸せにできる人の数、愛した花の

数、心に抱いた夢の数、その人間が一生かけて取り組む仕事の数がふくまれていたのだということ、私たちは忘れてはならないでしょう。そうなのです。

この世の中から一つの命が失われるということは、その命が生み出す数え切れないくらい多くの「生命」を失うことなのです。一つの命がもっている無限の可能性……その「生命」によって救われたり助けられたりするたくさんの人々の幸福や歓びをも失うことになるのです。

もう少しわかりやすくいうと、もしキミの命が失われたとしたら、キミがこれから出会うステキな恋人、友達、その人たちと過ごす楽しい時間、楽しい出来ごとが失われるのだと考えてほしいのです。そして、キミの存在によって元気づけられたり、幸せを感じたり、Eシヨウライを夢みたりすることのできる多くの人々をも失うことになるんだと考えてほしいのです。

今更いまでもありませんが、みなさんの命はみなさん一人だけのものではありません。みなさんがこれから生きていつて出会うたくさんの人たちの命であり、今もみなさんを愛してくれている家族や友達や先生たちの命なのです。みなさんは、そうした多くの人たちの命を「預って」生きているとさえいいたいのです。

もう一どいいいます。

④だから、だから、命を大切に！

(窪島誠一郎『無言館』にいらっしやい)より)

乾かぬ絵具

窪島誠一郎

六十年も経つというのに

あなたの絵具は

ちつとも乾いていない

あなたの描いた絵の朱は

まるで 昨日の夕陽をみるように

鮮やかで 美しい朱だ

あなたの描いた一本の線は

まるで あの日のあなたの決意をみるように

真つすぐで ためらいのない線だ

六十年経った今も

ちつとも乾いていない あなたの絵具は

あなたが今も そこに ⑤ ことを

私たちに教えてくれる

⑥ 鮮やかな 生命の色だ

乾かぬ絵具よ

今も 少しも色褪せぬ

あなたの一滴の生命よ

(窪島誠一郎『無言館の青春』より)

問一 —— 線① 「人間には二つの命がある」とありますが、筆者は二つ

の命にはどのような違いがあると考えていますか。次の文の空欄
1・2に入る適当な言葉を本文中から、それぞれ指定の字数で抜き
出しなさい。「命」は【 1 九字 】にするが、「生命」は【 2 二十字 】
という違いがある。問二 ・・に入る言葉として適当なものを、次のア

〜エの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア そして イ たしかに ウ でも エ なぜなら

問三 —— 線② 「命あつての物ダネ」とありますが、どのようなことを

表すことわざですか。次の文の空欄に入る言葉を、指定の字数で考
えて答えなさい。

命があるからこそ【 十五字以内 】ということ。

問四 — 線③「毎日毎日、悲しいものではありませんね」とありますが、
筆者がこのように感じる理由を、Xの本文中の言葉を使って五十字
以内で説明しなさい。

問五 — 線④「だから、だから、命を大切に！」とありますが、筆者
がこのように述べる理由を、Xの本文中の言葉を使って七十字以内
で説明しなさい。

問六 — ⑤に入る五字の言葉を、考えて答えなさい。

問七 — 線⑥「鮮やかな 生命の色だ」について、次の各問いに答え
なさい。

(1) 筆者は何を指してこのように言っていますか。具体的に表した言葉
を、詩の中から十字で抜き出しなさい。

(2) ここから作者のどのような思いが読み取れますか。Xの本文中の言
葉を使って七十字以内で説明しなさい。

問八 — 線A「リップ」・B「ユウキ」・C「トウケイ」・D「モクヒヨ
ウ」・E「ショウライ」をそれぞれ漢字に直しなさい。

□ 次の詩を読んで、後の問いに答えなさい。

生命いのちは

吉野 弘

生命は

自分自身だけでは完結できないように
つくられているらしい

花も

めしべとおしべが揃そろっているだけでは
不ふ充じゆう分ぶんで

虫や風が訪れて

めしべとおしべを仲立ちする

□ は

その中に欠如けつじよを抱いだき

それを他者から満たしてもらおうのだ

① 世界は多分

他者の総和

しかし

互いに

□ を満たすなどとは

知りもせず

知らされもせず

ばらまかれている者同士

無関心でいられる間柄あいだがら

ときに

うとましく思うことさえも許されている間柄
そのように

□ がゆるやかに構成されているのは

なぜ？

② 花が咲さいている

すぐ近くまで

蛇あぶの姿をした他者が

光をまとって飛んできている

私も あるとき

誰かだれのための蛇だったろう

あなたも あるとき

私のための風だったかもしれない

問一 ー ・ 二 三 に入る適当な言葉を、詩の中からそれぞ
れ抜き出しなさい。

問二 —— 線①「世界は多分／他者の総和」とありますが、のX『無
言館』にいらっしやい』の文章の中から、対応する言葉を五十字程
度で探し、はじめと終わりの五字を抜き出しなさい。

問三 —— 線②「花が咲いている／光をまもって飛んできている」とあ
りますが、この光景を見て、作者はどのようなことに気づきました
か。解答欄に合うように、五十字以内で説明しなさい。

生命は【 五十字以内 】ということ。